

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらんの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ICFやパーソンセンタードケアなどの勉強会を継続して行い、それらの視点と理念である『尊厳を守ること』を大切にケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全体で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者の思いに寄り添いながら専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勉強会が頻繁に持たれ、グループホームにおける介護のありかたについて深く検討され、ホーム全体で共通理解が図られている。声のかけ方、誘導の方法はもとより、一人ひとりの生活史、人となりの把握に意を注ぎ、重度化しても、その人の尊厳をいかに守るかを日々考えながら利用者の支援に当たっている。地域とのつながりが大切にされており、日常的な交流がある。医療との連携が密にあり、利用者やその家族に安心感をもたらしている。居住環境については利用者の居室は全室南向きにあり、温かい日差しが入る作りになっていて、廊下は車いすがすれちがうのに十分な広さがあり、階段の段差は足の不自由な方でも昇降しやすいよう低いものになっている。利用者の表情がとても明るく、職員とのアットホームな会話風景や利用者同士の賑やかな談笑の様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に3回行われるカンファレンスや勉強会を通じて、共通の認識になるよう努めている。新しい職員にも、理念を理解し取り組んでもらえるよう努めている。理念は廊下やリビングに掲示している。	パーソンセンタードケアについて4年、ICFについて3年学習会をもっている。利用者の尊厳を守るという理念を具体的な支援方法にいかに関与させるかが常に検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、事業所開催のイベントへの参加をして頂いている。近くの託児所に顔を出したり、野菜をおすそ分けして頂いたり、近隣の方との交流が日常的に見られる。	地元の行事に参加したり、ホームの行事に参加をいただく等日常的な交流がある。近隣の方々が利用者を見守っていただく等地域の方々との信頼関係、協力関係が深く、また地元に関わられたホームという印象を受けた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に参加して頂く行事や、地域での買物、飲食、美容院の利用等を通して、地域の皆様と触れ合い、理解が深まる事を願って行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行えていないが、グループホームの生活を知ってもらい、地域への活動強化につなげていくため、市担当者、自治会・老人会その他関係団体、関係機関等、会議への参加を働きかけ、開催に向けて検討している。	近隣の方に参加いただき、小さな会合を行っており、地域住民との連携や避難訓練や行事等の情報交換に資しているが、運営推進会議は開かれていない。市町村担当者や関係団体が出席する運営推進会議は行われていない。	市町村担当者、関係機関、関係団体、家族等に協力をお願いし、早期の開催に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について助言・指導をいただいたり、話し合いながら協力関係を築くよう努めている。	市町村窓口で事業所の疑問点等について助言・指導を受けたり、介護保険制度について情報を得たりする等して協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、拘束をしないケアを行っている。玄関や居室の施錠をすること無く生活していただいている。利用者の動きを制限しないよう意識を持ち、ケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて深く学び、実践している。玄関の施錠もなく、利用者の思い通りの生活を支えている。利用者の気持ちを制限することが利用者にとどのような影響を与えるかを常に意識することの大切さを確認しながらケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待防止の徹底と共に、精神的虐待も勉強会において学ぶ機会を持ち、見過ごされる事がないよう注意している。入浴介護時や、更衣時にさりげなく身体観察を行い、気付いたことがあれば報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深め、制度を利用することができるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事について、入所前にご利用者やご家族への説明の時間を持ち、納得していただけるよう働きかけている。その際、不安に思ってみえる事を聞き把握した上で、サービスにつなげるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やイベント時など、ご家族が気軽に話せる雰囲気作りを心掛け、意見・要望をお聞きし、その声を大切に希望に添える様にしている。苦情受付ポスターの掲示をしており、誰でも自由に意見・要望が言えるよう努めている。	家族の協力を得て外での食事会を持ったところ、何度も行っしてほしいという要望があり、実行するなど利用者や家族の意向を大切にしている。離れている家族に手紙を書いたり写真を送ったりし、意見や要望の吸い上げにも力を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンスの時に意見・提案を自由に言える機会を設け、その都度検討している。また、職員はいつでも意見が言えるような雰囲気もある。職員ごとの面談なども行っている。	人事考課も含めて管理者と職員が面談を行う機会があり、職員の意見が運営に反映されている。日常的にも意見を言いやすい雰囲気醸成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況など把握し、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めている。勉強会を行い、研修への参加を促し、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を重ねる事で、個々のスキルアップに繋げている。また職員が希望する研修に参加できる機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	こちらのイベント等に同業者が参加するなどの機会があり交流している。他事業所の勉強会の参加もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、状況を把握し、また利用が始まれば、よく声をかけ利用者本人の話を傾聴し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、家族や関係者と話す機会を積極的に持ち、傾聴する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話をよく聞いて状況を把握し、本人とご家族が必要としている支援を他のサービスも含め検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には自分でできる事は行って頂き、見守る事もあったり、共同で事を成し遂げる喜びを作るようにしている。上からの目線にならないように気を付けている。利用者の持っている力を引き出せるような関わりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近のご様子を報告させて頂いたり、月1回のお手紙にて様子をお知らせしながら絆を保っていけるよう配慮している。ご家族の負担にならないよう考えながら面会への促しをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や、知人のいるスーパーへと足を運ぶなど、場所に出掛ける機会を持っている。本人からの要望だけでなく、職員からも働きかけ、途切れないよう支援している。	馴染みの喫茶店に同行し、店主の見守り協力の下、滞在するエピソードを伺った。地域との深い信頼関係があり、地元で立脚しているホームという印象を受けた。地区が広いので必ずしもその方の地元ではないということもあるが、利用者の方と地域でのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をされている時など、その様子をさりげなく見守り、いつでも介入できるよう気にかけている。利用者同士支え合えるような場面をセッティングし、よりよい関係が築けるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所などへ移られる際には、介護サマリーにて細かな情報をお伝えしている。退所後も面会させていただいたり、家族との交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、日常の会話の中から情報把握に努め、アセスメントし、ケアプランをたてて支援している。困難な場合は日常の言動、表情から読み取るようにしている。	担当制を敷き、一人一人の性格、希望をより深く理解しようという体制がある。「飴玉がないと口がさみしくて」という利用者を食材の買い出し時にお誘いして購入していただくなど利用者の希望に沿ったきめ細かい支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネからの情報提供やセンター方式家族版、本人からの情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、言動からその日の心身状態を見極め、CW同士情報交換したり、申し送りノート類を活用し統一したケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望や意見も聞き、月2回のカンファレンスにて、職員全体で情報・意見交換を行い、プランの見直し、作成を行い、現状に即した介護計画になっている。	日常のふれあいの中で利用者の希望や意見を多くみ上げる努力がされている。家族の訪問が多くあり、家族の方の意向を聞く機会も多い。定期的に家族に通信を送付し、利用者の様子を伝えるとともに家族からの意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の記録、連絡ノートを通じ、職員全体で情報を共有し、毎日のケアに役立てている。プランに基づいた記録をする事で、プランの評価、見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診の付き添い等、本人、家族の希望に添えるよう、チームワークで柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語やお茶会を開いて下さるボランティアの方に来て頂いている。地域の行事にも積極的に参加し豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意の下、近隣の医院をかかりつけ医とし、定期的に受診できるよう支援している。何かあればすぐに医療機関にかかるような態勢をとっている。	かかりつけ医はすぐ向かいにあり、緊急時には夜間を問わず往診していただける。医院には訪看ステーションがあり、定期的に訪問してくれている。他科についても連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に情報や気づきを伝えたり、アドバイスを頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時のサマリーのやりとりにて、早期にそれぞれの場所で安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階で、ホーム、家族、医師とで面談を行い、ご家族の希望、ホームでできることを話し合い、書面を交わし同意を得ている。穏やかに最期を迎えられるようチーム全員で支援している。	医師の協力が得られており、職員の理解があり、看取りに対する体制ができています。また経験の積み重ねがあり、職員全員で終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを施設内に設置し、講習を受けている。急変時に備えて、定期的に行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。非常時の連絡網もある。非常時用の食料や水なども備蓄されている。	自治会の災害時の協力隊員になっている。夜間の災害時の対応についても検討がされている。食料や水も3日分は備蓄している。緊急連絡システムがあり、スプリンクラーも設置されている。	今後とも災害時の地域の拠点として更なる活動に期待する。具体的には、災害時のホームへの影響を最小限に抑え、早期復旧と事業継続を担保するためにも、福祉BCP(事業継続計画)の策定に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保守は事業所の理念でもあり、職員は日々自分たちの態度や言葉遣い等確認し合いながら対応している。	担当制を敷き、尊厳の尊重を第一に、その人にあわせた言葉かけ、対応が行われている。例えば耳の遠い方に対し大声で話すのではなく、耳元で話しかけるなどその人に注目が集まるようなことを避ける等配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に思いを表していただけるような雰囲気作りをしている。押しつけのケアではなく、自己決定して頂けるような仕組みと演出にて働きかけをしている。オープンドクエスチョンを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の入浴等、決まりにとらわれず、常に本人の希望にそえるよう努めている。すぐに対応できない事も多いので、チームプレイに努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品をそろえたり、好きな服を選んでもらう、入浴後には乳液をつけるなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。髪の毛の伸び具合や、爪、ひげなどにも気をつけ、その都度対応している。また、声を掛けることを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を一緒に考えたり、一人ひとりの力を見極め、利用者の方々を巻き込み、調理から食事、片付けまで職員と一緒にやっている。台所参加が楽しい時間となるようにしている。	利用者全員が一つの食堂に集まることにより、一人ひとりにきめ細かな支援ができています。ゆっくりなら一人で摂食できる人には自力で摂食していただく、危険のないものは利用者に運んでもらう等その人ができることを見極めている。利用者の皆さんが生き生きと職員と会話しながら食事をしている様子が伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や体重の変化に気を配っている。栄養のバランスを考え、多くの食品を摂るようにしている。一人ひとりの状態に合わせて、細かく刻んだり、副食を少なめにするなど工夫している。水分の摂取にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、朝と就寝前に行っている。昼食後は、利用者の口腔内の状態に合わせて行っている。口腔ケア体操を毎日皆で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンに合わせた声かけで、トイレでの排泄に努めている。また、利用者が不快にならないような介入、介助に努めている。	排泄チェック表だけでなく、利用者の表情や行動から排泄の時期を推察し、トイレでの排泄が行えるよう声かけをしている。排泄を失敗された場合、他の利用者には知られないような配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけ、繊維質の多い食材、乳製品など取り入れた食事や、散歩など身体を動かしたり、腹部マッサージを行い働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日の設定はしてあるが、基本的には希望にそって好きな時に入浴して頂いている。一人ひとりに合った時間や声のかけ方等により、気持ちよく入浴できるよう努めている。	入浴したくない利用者には入浴剤を工夫したり、着替えを準備し、娘さんが入浴を望んでおられると言葉がけをしたり、機嫌の良いときを見はらかってお勧めしたり、本人の入浴の意思の喚起に意を注いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具など気持ちよく眠れるよう環境を整えている。変化に気を配り、活動の合間に休憩をとったり、必要に応じお昼寝の促しをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の薬であるか確認し、飲み終えるまで見届けたらチェック表に記入している。服薬内容の把握にも努めている。症状の変化に気を付け、周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何が好きかを知る事から始め、好きな事、得意な事をして頂き、ホームでの生活が張り合いのある楽しいものであるよう支援している。誕生日のお祝いや季節の行事など、楽しみごとをもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば可能な限り外出支援をしている。急な外出もチーム全体で支えている。車椅子利用の利用者に対しても、体調や天候を見ながら声かけをしている。ホーム全体でも年に何回か外出に出かけている。	食材の買い出しに利用者の方々と共に出かけ食材を選んでいただいたり、レジでの清算をしていただいたりもしている。家族の協力を得て外食や美容院へ行っていただくこともある。時に喫茶店へ出かけ喫茶店の方の協力を得て職員が外に出て見守ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方には財布を所持していただいている。管理が難しい方には、お金を金庫でお預かりし、安心していただいている。支払いを利用者にさせていただくことで、お金を自由に使える楽しさや、お金を持つ事による安心感・満足感を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合は相手様の迷惑にならない範囲にて自由に電話が使えるように支援している。手紙も、切手を準備したり、投函するなどの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のガス台、流しなど家庭と同じもので混乱なく使用できる。お風呂も一般家庭と同じであるため、安心してゆったりと使用されている。花の好きな利用者に季節の花を活けて頂き、玄関や和室等に飾っている。空調にも注意し、こまめに調節している。	風呂は介助の必要な場合にも対応できる広さがある。食堂兼居間には畳の間があり、そこに掘りごたつを備えるなど、利用者の使いやすさに工夫をしている。空調は常に利用者の体調に配慮しこまめに調整されている。全体的に木の良さを生かした和の設えを感じた。廊下には絵の作品や民芸品などがあることにより、落ち着きのある雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を廊下に置き一人で休んだり、気の合う方とお話したりできるようにしている。2階の食堂や台所で少人数でお茶をされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具、仏壇やパソコンなど、家で使用された物が自由に持ち込まれ、写真、ぬいぐるみなど馴染みの物が飾られ、落ち着いて生活できるようにしている。	部屋に収納庫が設置されており、ベッドや家具、馴染みのものが飾られているにもかかわらず、きちんと整頓され、落ち着いた空間になっている。全室日当たりがよく、窓外に緑を望むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープの設置、食堂兼居間の入口の提灯、浴室ののれん、トイレの貼り紙、居室の表札など分かりやすいように工夫している。台所用品の置き場所も定位置にして、混乱なく使用できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらんの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に3回行われるカンファレンスや勉強会を通じて、共通の認識になるよう努めている。新しい職員にも、理念を理解し取り組んでもらえるよう努めている。理念は廊下やリビングに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、事業所開催のイベントへの参加をして頂いている。近くの託児所に顔を出したり、野菜をおすそ分けして頂いたり、近隣の方との交流が日常的に見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に参加して頂く行事や、地域での買物、飲食、美容院の利用等を通して、地域の皆様と触れ合い、理解が深まる事を願って行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行えていないが、グループホームの生活を知ってもらい、地域への活動強化につなげていくため、市担当者、自治会・老人会その他関係団体、関係機関等、会議への参加を働きかけ、開催へに向けて検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について助言・指導をいただいたり、話し合いながら協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、拘束をしないケアを行っている。玄関や居室の施錠をすること無く生活していただいている。利用者の動きを制限しないよう意識を持ち、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待防止の徹底と共に、精神的虐待も勉強会において学ぶ機会を持ち、見過ごされる事がないよう注意している。入浴介護時や、更衣時にさりげなく身体観察を行い、気付いたことがあれば報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深め、制度を利用する事ができるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事について、入所前にご利用者やご家族への説明の時間を持ち、納得していただけるよう働きかけている。その際、不安に思ってみえる事を聞き把握した上で、サービスにつなげるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やイベント時など、ご家族が気軽に話せる雰囲気作りを心掛け、意見・要望をお聞きし、その声を大切に希望に添える様にしている。苦情受付ポスターの掲示をしており、誰でも自由に意見・要望が言えるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンスの時に意見・提案を自由に言える機会を設け、その都度検討している。また、職員はいつでも意見が言えるような雰囲気もある。職員ごとの面談なども行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況など把握し、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めている。勉強会を行い、研修への参加を促し、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を重ねる事で、個々のスキルアップに繋げている。また職員が希望する研修に参加できる機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	こちらのイベント等に同業者が参加するなどの機会があり交流している。他事業所の勉強会の参加もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、状況を把握し、また利用が始まれば、よく声をかけ利用者本人の話を傾聴し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、家族や関係者と話す機会を積極的に持ち、傾聴する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話をよく聞いて状況を把握し、本人とご家族が必要としている支援を他のサービスも含め検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には自分でできる事は行って頂き、見守る事もあったり、共同で事を成し遂げる喜びを作るようにしている。上からの目線にならないように気を付けている。利用者の持っている力を引き出せるような関わりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近のご様子を報告させて頂いたり、月1回のお手紙にて様子をお知らせしながら絆を保っていけるよう配慮している。ご家族の負担にならないよう考えながら面会への促しをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や、知人のいるスーパーへと足を運ぶなど、場所に出掛ける機会を持っている。本人からの要望だけでなく、職員からも働きかけ、途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をされている時など、その様子をさりげなく見守り、いつでも介入できるよう気にかけている。利用者同士支え合えるような場面をセッティングし、よりよい関係が築けるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所などへ移られる際には、介護サマリーにて細かな情報をお伝えしている。退所後も面会させていただいたり、家族との交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、日常の会話の中から情報把握に努め、アセスメントし、ケアプランをたてて支援している。困難な場合は日常の言動、表情から読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネからの情報提供やセンター方式家族版、本人からの情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、言動からその日の心身状態を見極め、CW同士情報交換したり、申し送りノート類を活用し統一したケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望や意見も聞き、月2回のカンファレンスにて、職員全体で情報・意見交換を行い、プランの見直し、作成を行い、現状に即した介護計画になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の記録、連絡ノートを通じ、職員全体で情報を共有し、毎日のケアに役立っている。プランに基づいた記録をする事で、プランの評価、見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診の付き添い等、本人、家族の希望に添えるよう、チームワークで柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語やお茶会を開いて下さるボランティアの方に来て頂いている。地域の行事にも積極的に参加し豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意の下、近隣の医院をかかりつけ医とし、定期的に受診できるよう支援している。何かあればすぐに医療機関にかかるような態勢をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に情報や気づきを伝えたり、アドバイスを頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時のサマリーのやりとりにて、早期にそれぞれの場所で安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階で、ホーム、家族、医師とで面談を行い、ご家族の希望、ホームでできることを話し合い、書面を交わし同意を得ている。穏やかに最期を迎えられるようチーム全員で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを施設内に設置し、講習を受けている。急変時に備えて、定期的に行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。非常時の連絡網もある。非常時用の食料や水なども備蓄されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保守は事業所の理念でもあり、職員は日々自分たちの態度や言葉遣い等確認し合いながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に思いを表していただけるような雰囲気作りをしている。押しつけのケアではなく、自己決定して頂けるような仕組みと演出にて働きかけをしている。オープンドクエスチョンを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の入浴等、決まりにとらわれず、常に本人の希望にそえるよう努めている。すぐに対応できない事も多いので、チームプレイに努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品をそろえたり、好きな服を選んでもらう、入浴後には乳液をつけるなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。髪の伸び具合や、爪、ひげなどにも気をつけ、その都度対応している。また、声を掛けることを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を一緒に考えたり、一人ひとりの力を見極め、利用者の方々を巻き込み、調理から食事、片付けまで職員と一緒にやっている。台所参加が楽しい時間となるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や体重の変化に気を配っている。栄養のバランスを考え、多くの食品を摂るようにしている。一人ひとりの状態に合わせ、細かく刻んだり、副食を少なめにするなど工夫している。水分の摂取にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、朝と就寝前に行っている。昼食後は、利用者の口腔内の状態に合わせて行っている。口腔ケア体操を毎日皆で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンに合わせた声かけで、トイレでの排泄に努めている。また、利用者が不快にならないような介入、介助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけ、繊維質の多い食材、乳製品など取り入れた食事や、散歩など身体を動かしたり、腹部マッサージを行い働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日の設定はしてあるが、基本的には希望にそって好きな時に入浴して頂いている。一人ひとりに合った時間や声のかけ方等により、気持ちよく入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具など気持ちよく眠れるよう環境を整えている。変化に気を配り、活動の合間に休憩をとったり、必要に応じてお昼寝の促しをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の薬であるか確認し、飲み終えるまで見届けたらチェック表に記入している。服薬内容の把握にも努めている。症状の変化に気を付け、周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何が好きかを知る事から始め、好きな事、得意な事をして頂き、ホームでの生活が張り合いのある楽しいものであるよう支援している。誕生日のお祝いや季節の行事など、楽しみごとをもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば可能な限り外出支援をしている。急な外出もチーム全体で支えている。車椅子利用の利用者に対しても、体調や天候を見ながら声かけをしている。ホーム全体でも年に何回か外出に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方には財布を所持していただいている。管理が難しい方には、お金を金庫でお預かりし、安心していただいている。支払いを利用者にさせていただくことで、お金を自由に使える楽しさや、お金を持つ事による安心感・満足感を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合は相手様の迷惑にならない範囲にて自由に電話が使えるように支援している。手紙も、切手を準備したり、投函するなどの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のガス台、流しなど家庭と同じもので混乱なく使用できる。お風呂も一般家庭と同じであるため、安心してゆったりと使用されている。花の好きな利用者に季節の花を活けて頂き、玄関や和室等に飾っている。空調にも注意し、こまめに調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を廊下に置き一人で休んだり、気の合う方とお話したりできるようにしている。2階の食堂や台所で少人数でお茶をされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具、仏壇やパソコンなど、家で使用された物が自由に持ち込まれ、写真、ぬいぐるみなど馴染みの物が飾られ、落ち着いて生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープの設置、食堂兼居間の入口の提灯、浴室ののれん、トイレの貼り紙、居室の表札など分かりやすいように工夫している。台所用品の置き場所も定位置にして、混乱なく使用できるようにしている。		